

# 時報

第百六十八號

東京 明治十七年三月十四日 星期日 第六百八十八號 日曜金 刊休日曜日 錢三金價定

### 公報

○內務省總乙第拾五號 警視廳 府縣(東京府を除く) 客年第五十號公布古物商販條例第廿一條官沒スル物品ノ備ハ當道九年乙第百三十六號十五年乙第七十號十六年乙第十三號ニ準據シ可取計此旨相違無事

明治十七年三月十三日 內務卿山縣有朋

○警視廳布達甲第拾號 自今發給工場建設セントスル者ハ明治十四年(八月)當廳甲第三拾六號布達ニ據リ出願ノ手續ヲナス可シ但シ現業者ハ本日廿五日限リ出願スヘシ

明治十七年三月十三日 警視廳總監大迫貞清

### 叙任

○明治十七年二月十三日 騎兵少尉正八位 萩原 盛徳 任騎兵中尉 田中多四郎 任騎兵少尉 香宗我部順 任騎兵少尉 一賀 道文

○明治十七年二月廿七日 砲兵大尉正七位勳五等 左乙女英武 任砲兵少佐 藤田四方藏 任工兵中佐 工兵少佐從六位勳四等 賀茂 水穂 任海軍機少書記官 正七位勳六等

### 時事新報

#### 租稅徵集法ヲ論ス

凡ソ天下ノ事業之ヲ遂グ之ヲ行ハント欲セバ從テ其資本ナカレバカラス資本アリ事始テ成リ業始テ起ル資本ナクテテ空手ノ事ノ成果ヲ待ツ焉其源ヲ養ハズシテ其末ヲ待ツノ事トシテ免カレンヤ事業ノ基、一ニ資本ニ在テ存スト云フベキノ去レバ今一國ニ於テ荷モ與スベキノ大公事アリ遂グベキノ大公業アリテ之ヲ興シ之ヲ遂グント欲セバ必ズ先ヅ其資本即テ政府ノ入テ備ヘザレバカラス今更我輩ノ學ヲ須クズレテ世人ノ已ニ知悉スル所ナラシテ政府ノ入ニ充ツルガ爲メニ人民ヨリ租稅ヲ徵集スルヤ其政府ニシテ尙ホ總然タル專制政治ノ形跡ヲ存スルカ若クハ封建政治ノ餘孽ヲ附シテ天下ノ公共ノ事務モ一切之ヲ秘密ニ附シテ治シ、私ヲ謀テ人民ノ上意ヲ知ラズ一國財政ノ道ノ如キハ勿論未ダ全ク變ハズシテ金錢ノ出納一ニ二三官吏ノ左右スル所ナルガ如キ世ノ中ナラシメハ自ガカテ人民ノ方ニ於テモ猜疑ノ念ヲ抱キ安心シテ租稅ノ徵集ニ應ズルヲ敢テセザルノ事情モアルベク又事實カレ世ノ中ニハ獲リニ人民ヨリ財ヲ貪テ之ヲ官吏ノ私用ニ供スルガ如キ不正ノ所業モアルベクテレバ人民ノ時ニ或ハ賦稅ニ就テ不平ヲ訴フルモ誠ニ無難ナラスコトナリト云ハザルヲ得ズ然レモ社會ノ秩序已ニ成リ政府ノ組織已ニ完ウシテ理財ノ道亦已ニ能ク達シ遂ニ國ノ金モ官吏私ニ之ヲ左右セズ一出一納毎ニ之ヲ帳簿ニ明記シテ人民ノ公覽ヲ俾テ増稅ヲ謀カレモ官吏ノ私蓄ヲ富マヌコトアラス誠ニ命ヲリトテ其所得ヲ損損スルニモアラズ政府ハ唯事業ト人民トノ中間ニ立テ一時人民ヨリ租稅ヲ徵集スルニ盡テ之ヲ以テ其人民公共ノ事業ニ充ツルコトナレバ

政府ハ唯金錢ノ取次ナスモノニ過キズ斯カレ公明正大ナル社會ニ在テハ人民ノ多ク租稅ヲ出ス其割合ニ於テ其人民ノ利益タル社會ノ事業モ亦盛ソ行ハルベキ等ナレバ最早人民ハ租稅ニ關シテ兎角ノ猶豫ヲナサズ一令ノ下、惜マズ疑ハズ之ヲ納ルコト眞ニ正當ノ義務ナリト云ハザルヲ得ズ或ハ世人ノ口癖トシテ政府ハ租稅ヲ取ルト云フコトアリ我輩ハ此取ノ字ニ就テ聊カ不審ナキ能ハズ何ントナレバ政府ノ租稅ヲ取立ルヤ固ト人民ノ爲メノ人民公共ノ事業ヲ遂グント欲スレバコソ資本ヲ要シ資本ヲ要スルガ爲メ租稅ヲ取立ルコトナレバ固ヨリ租稅ヲ取テ深ク之ヲ倉庫ニ藏メ若クハ私ニ之ヲ浪費スルコトアラズ去レバ我輩ハ政府、租稅ヲ取ルト云ヘンヨリ我輩ハ政府、人民ノ財ヲ集ムト云ヘンヨリ誠トシテ穩當ナルベキヲ信ズ又政府モ公共有益ノ事業ヲ起サシガ爲メニ到底其資本ヲ要スルコトナラシメハ遠慮ニ及バズ人民ヨリ租稅ヲ徵集シ唯其用法順等々之ヲ人民ニ明コシテ不平等アラザルヨリ以上一毫モ疑懼スル所勿ラシクテ希望スルナリ

然レモ政府ガ人民ヨリ租稅ヲ徵集スルコトハ僕等其人民財產上ノ進度如何ノ知悉スルコト甚大切ナリ蓋シ租稅ノ輕重ナ論ズル唯其金額ヲ以テノ標準ト爲ス可クズ其重款ト云ヒ輕稅ト稱スルハ畢竟其人民財產上ノ有様ニ比較シテ區別ノ外ナラザレバ荷モ文明國ノ政府ナラシメハ僕等其人財產上ノ進度如何ノ知悉シテ而シテ後始テ徵集ノ沙汰ニ及ブベキナリ若夫理想像上ヨリ此人民ハ斯カレ租稅ハ尙ホ堪ユベシ今一步進メバ必ズ不平ヲ訴フルコトナラシト恰カモ尺度ヲ用ヒズレバ物ノ短長ヲ推測スルガ如キノ所置アラシムハ其小都合學ヲ云フベカラズ例ヘバ一頭ノ馬アリ此馬ニ向テ荷物ヲ負ハシムルニ際シ其馬ノ力量ヲ探リ其堪ル所ノ荷物ハ幾ナラカチ知ルコトアラザレバ或ハ重キコト過ルアリ或ハ輕キコト失スルアリ常ニ適度ヲ外ヅンテ實際上ノ不都合ヲ生ズルコト甚ダ少ナカズ人民ニ租稅ヲ賦課スルハ則チ荷物ヲ負ハシムルナリ此荷物ヲ負ハシムルニ先ヅ其人民ノ力量ヲ測ラズ唯其理想像上ヨリ輕重ヲ斷定スルガ如キハ誠ニ明政府ノ爲スベキコトアラザルナリ蓋シ斯ク人民財產上ノ有様ヲ知悉スルコトハ中々容易ノ事業ニアラズト雖モ亦我輩ガ去月廿七同廿九ノ兩日間時事新報編輯部内ニ米國ノ進運ト題シテ掲載シタル同國人口及財產ノ比較表道、森林、田圃、運河、倉庫、船舶、等一國財產ノ増減其他輸出入品ノ比較等數年間進運ノ状況ニ關シテ統計表ノ如キモノニ依テ考フルモ一國民財產ノ現況如何ノ知悉スルハ必ズシテ行届カザルコトモ非ザル可キ又凡ソ物ノ適度ヲ考フルニ先ヅ上下兩極端ノ二數ヲ心中ニ書キ其二數ニシテ不適當ナレハ則チ其適度ハ此二數ノ中間ニ在ルコト甚ダ明白ナリ例ヘバ馬ノ力量ヲ定ムルニ百貫目以上先ヅ目安テ立テカ未ダ之ヲ馬背ニ試シテ已ニ其重荷ニ過ルヲ知ル、使テ下テ十貫目ノ荷物トシテカ之レノコト又餘リニ輕荷ト云ハ

ザルヲ得ズ乃チ其馬力ノ適度ハ此百貫目十貫目トノ中間ナル或數ニ在テ存スルヤ明ナリ今一國民租稅負擔ノ適度ヲ定ムルニモ斯カレ數理上ノ思想ヲ以テ兩極二數ノ不適當ヲ見出シ其中間ナル數ハ如何ナルモノナルカチ吟味セバ或ハ稍其當ヲ得ルコト近カラシク之ヲ日本ノ政府ニ適用シテ云ハバ其輸入ノ英國ニ倣フテ四億五千萬圓トセン歟、今日ノ有様ニテハ國民ノ負擔ニ過重ナラシムル然レバ則チ其九分ノ一即チ五千萬圓ニ下ダシテ輕キハ誰レ人モ許ス所ナルガ故ニ此兩數ノ中間何レノ點ニ止マリテ適當ナル可キヤ之ヲ吟味スルハ租稅法ノ根本ナル可キ

根本既ニ定リ此國民ニハ大凡ソ幾干ノ荷物ヲ負擔セザルモ途ニ艱ル、ノ憂アル可ラズト確ニ見込テ立テ上ニテ始メテ租稅ノ方法ヲ講ス可キ即チ荷物ノ種類ヲ擇ビ荷作りノ風ヲ吟味スルコトナリ此一段ニ至テ我輩ノ部見テ陳レバ都テ稅目ハ輕クシテ細クナラシムルコトモ重クシテ簡單ナラシムルコトモナリ蓋シ馬ニ荷物ヲ負ハシムルニ唯其輕カクシテ一頭ノ荷物ヲ數分シ或ハ頭上ニ或ハ背後ニ或ハ足ニ或ハ頭ニ數ヶ所ノ間ニ分擔セシムルハ馬ノ之ガ爲メニ少シモ輕キヲ覺エズ却テ歩テ妨ケラレテ煩雜ニ堪エズ事實ハ少量ノ荷物コトモ之ヲ負フテ疲レ、ノ狀ハ重何ヲ負フニ等シキコトアル可キレバナリ我輩嘗テ云ヘルトアリ租稅ハ輕重共ニ國民ノ苦痛タルヲ免カレズ等シク苦痛ヲ覺ヘシムルナラバ細細無數ノ打掃ハ木刀ノ一擊ニ若カズト云ヒレモ其微意ノ邊ニ在レモノナリ稅法ヲ講スルニ當リ是レ思ヒ遠ニ細クノ策ニ出テ國中各處ノ小分子ヲ集メテ以テ輸入ニ充テレトスルガ如キハ所謂小政治家ノ爲スルニシテ彌縫姑息ノ策略ニ過キズ苟モ社會有益ノ事業ヲ起シシガ爲メニ租稅ノ必要ヲ覺悟シタル以上ハ大膽政治ヲ以テ二三稅源ノ上ニ大ニ之ヲ賦課センコト正サシ文明政治家ノ勉ムベキ所タルヲ信スルナリ

○三月九日龍崎發 埃及のスマキムカ若クは其近邊にて來る金曜日(十日)決戰を闘かんとする模様あり○英國下院にては二日間の討論の末埃及スーダン事件に對して五十万磅の費額を増加するに決したり

○官廳彙報 工部少技長尾立太郎氏は一昨十二日警備國警前部上湯長谷村石炭山檢視のため出張を命ぜられ、大藏權少書記官山本豊躬氏の日御用を付き長崎縣へ出張を命ぜられたり○判事一賀道文氏の去月二十一日八時官相當年俸七百八十圓下賜、內務大書記官中村孝輔氏は本月八日土

○高國評論新聞 たる萬國評論新聞 聖彼得堡、莫斯科、利加諸都府、日本之事情を通信し又日本之之を掲載する見込

東京 明治十七年三月十四日